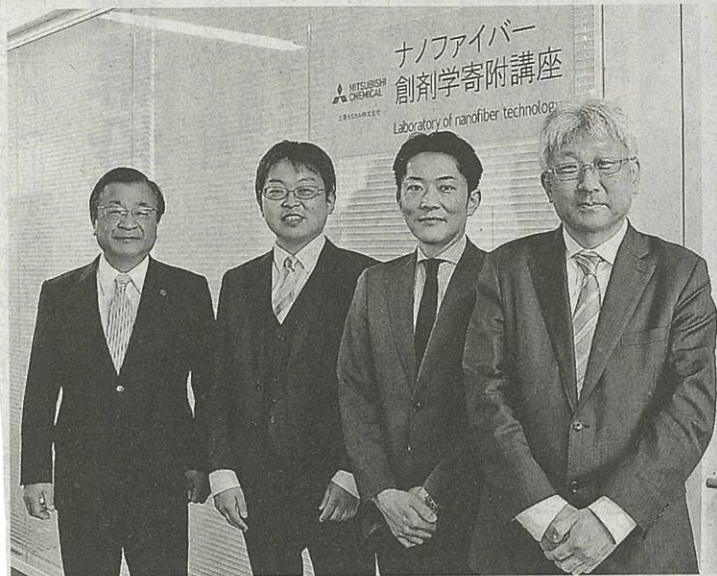


新聞記事は岐阜新聞社の許諾を得て転載しています。
岐阜新聞社に無断で転載することを禁止します。

ナノファイバー活用、吸収されやすい薬に

岐阜薬科大に創剤研究室

三菱ケミカルと連携、開設



医薬品向けのナノファイバーの研究室の前に立つ原英彰学長（左端）ら関係者＝岐阜市大学西、岐阜薬科大

岐阜薬科大（岐阜市大学西）は、化学物質「ポリビニルアルコール」で作った極細繊維の高分子ナノファイバーに、医薬品の有効成分を組み込んだ薬の実用化を目指す。薬を細かくすることで体が吸収しやすくなる効果が期待できるという。ポリビニルアルコールを販売する三菱ケミカル（東京都）から寄付を受け、今月研究室を開設した。

（松浦健司）

同大によると、大学が医薬品向けにナノファイバーの研究は工業用が多かったという。

新型コロナウイルスのRNAワクチンをはじめ新規医薬品の多くは、体内で吸収されにくかったり、保管の温度や湿度次第で有効成分が分解されたりする問題があった。薬の有効成分を微細にし、水に溶ける特徴を持つポリビニルアルコールでコーティングすること

で、医薬品の効果を最大限に発揮させることを狙う。皮膚や舌に貼る外用のほか、錠剤やカプセルにしての内服、注射といったさまざまな剤形を想定している。原英彰学長は7日、記者会見し「三菱ケミカルのノウハウを生かして画期的な創剤を目指す」と話した。